

学ぶ…

アモイで中国語を学んだ夏



大江 哲

老いて始めた私の中国語であるが、現地で学びたいという希望が、やっとかなえられた。福建省のアモイ大学での中国語速習講座。7月の26日間だった。78歳から中国語を学び始め、85歳になる私だが、世界各国から来た20〜40歳の若者たちと仲良く授業を受けた。

私が受講した初歩クラスには、タイ、韓国、フィリピンから各2名、米、トルコ、カナダ、ク

図抜けて年かさの私は生徒仲間から大江爺爺（イエイエ）と呼ばれ、教室外でも楽しく交流ができたし、前から在学している日本の留学生や研究生たちと話し合えたのも収穫だった。上級クラスには日本人も多く、アモイで起業しようという目的を持って中国語を学習している人も何人かおられた。

アモイは福建省南部の港町で、台湾の対岸にあり、華僑の故郷とも言われている。アモイ大学は1921年の創立で今年が90周年。シンガポールのゴム王と言われた華僑の陳嘉庚氏が「教育救国」の理念から創立された大学で、教育部直属の一級大学である。

キャンパスはアモイ湾の海岸にあり、後ろには山を控え、中国では数少ない閑静で美しい環境を誇る。広大な524・5ヘクタールの敷地に大樹に囲まれて各学部が点在し、我々の宿舎となるホテルのほか、銀行、学生寮、レストランが揃っている。

私の授業料は3千440元（約4万5千円）、宿舎は、私の泊まった9階と10階はルームサービス付きのホテル形式、海側の眺めは絶景。それで1日208元（約2千700円）の安さだった。教室である海外教育学院は



アモイ大学での教室の様子、右端が筆者

緑にかこまれたキャンパス



声の正確な聞分けでは、残念ながら上だった。

印象に残ったクラスメートを紹介しよう。サンフランシスコから来たR氏は64歳。夫人はフィリピン人で7歳の坊やがいる。職業は作曲と映画製作。どちらか儲かるほうをやるそう、今は映画製作。耳がいいので四声の聞き分け、発音がうまく、指導教官もその言葉の正確さを褒めていた。

宿舎のすぐ近くで、中には割安で清潔な中華と洋食のレストランがあった。

日本人以外は漢字を覚えるのが大きなハンデだが、かえって耳から覚える外国人の方が、複雑微妙な中国語独特の発音や四

格を持つ。モントリオールの人から趣味で中国語を教わっていること、漢字を書くのもなかなかのもの。40台前半のバイタリティにあふれた人でもが欲しい」というのが口癖。

私に「モントリオールに来たら、キスしてあげる」と約束してくれたが、さて……。

彼女が私にマスターとあだ名をつけたので皆もそう呼ぶようになった。クラス全員、「老師」も入れて仲良くなり、メルアドもたくさん交換したので今後の交信が忙しくなる。

アモイ大学日本研究所長の王虹先生とはこれまでの2回の訪問では会うことができなかったが、今回初めてご招待を頂いて、ご家族や諸先生ともお目にかかって懇談できたので、今後、善隣協会との交流発展に尽くしたいと思っっている。

アモイ大学には中国語のほかにもカンフー太極拳、書道、中国紙きりなど魅力的な講座がたくさん

あるので、会員の皆さんにも留学、聴講をお勧めする。善隣関係者が旅行ベースでアモイ大学のホテルに滞在し、短期の講座やら見学旅行やらをセットして、楽しむことも考えられるだろう。



めでたく修業式を迎えた